

NEWS LETTER



横浜災害ボランティアネットワーク会議

編集・発行：横浜災害ボランティアネットワーク会議

〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1 横浜市健康福祉総合センター8階

社会福祉法人横浜市社会福祉協議会内

TEL 045-201-8620 FAX 045-201-1620

H P : <http://www.yokohama-saigai-vol-net.jp/archives/>

E-mail: saivol@yokohama-saigai-vol-net.jp



2018年2月発行 No.59

報

告

平成 29 年度

災害ボランティアコーディネータースキルアップ研修会

「受援力を高めるために！～地域に寄り添った災害ボランティアセンターとは～」をテーマに平成 29 年度災害ボランティアコーディネータースキルアップ研修会を行いました。

日時：平成 29 年 11 月 13 日（月）18 時 30 分～20 時 30 分

場所：横浜市健康福祉総合センター 4 階ホール

参加者：76 名

講師：高山 弘毅氏（Nukiito（ぬきいと）代表）



毎年実施している災害ボランティアコーディネータースキルアップ研修会。

運営委員の皆さんからは、実際に支援を受ける側の話も聞いた方が良いのではないか、という意見があり、今回のテーマに繋がりました。

講師の高山さんは、元前橋市社会福祉協議会の職員で、平成 26 年 2 月に関東甲信地方で発生した豪雪では前橋市も被害を受け、「前橋市大雪たすけあいセンター」の設置運営に従事された経験があります。また、九州北部豪雨で被災した大分県日田市、福岡県朝倉市の各災害ボランティアセンターの支援をしており、実体験に基づいたお話をしていただきました。

研修会の中では、

①災害ボランティアセンターを立ち上げる上で必要な地域の視点

②災害ボランティアを受け入れる側（地域）の実際の声

③地縁でない団体との関わり

④地域に寄り添う災害ボランティアセンターになるために、どのようにニーズを聞き取ればいいのか

の 4 点に絞ってお話いただきました。その中で、マニュアルを作り込みすぎず、そして頼り過ぎずに初めて遭遇することばかりの中で、臨機応変に対応することが大切であること、地縁組織ではないテーマ型の団体と連携することにより、支援の質が高くなっていくこと、日頃も災害時も地域の在り様をきちんと捉えようとする、災害ボランティアセンターの三原則は「被災者中心」・「地元主体」・「協働」であるということをお話をいただきました。

また、ボランティアをしたい人は大勢いるが、ボランティアに来て欲しいと言える人は意外と少なく、「助けてほしい」と言えるように日常からの関係性も大事である、ということも学びました。

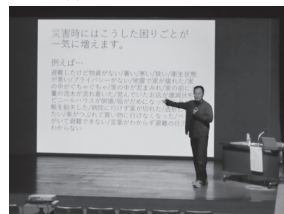
実体験に基づいたお話しに、参加者の皆さんからは様々なご意見をいただきました。

◆人の心を大切にすること、平時が大切なことを改めて再認識した。

◆活動ありきではなく、その人の支援をしに来たことを忘れないようにしていくことが大事だと感じた。

◆被災者の気持ちを考えて、ニーズを出してもらいやすい工夫が必要だと思った。

どのような被災状況になるかわからない中で、一人一人の日頃からの認識と行動が大切だとわかりました。今後もスキルアップできるよう、研修会等を企画していきます。



活動紹介

横浜災害ボランティアネットワーク会議 会員紹介

横浜災害ボランティアネットワーク会議には平成 30 年 2 月現在 83 団体 12 個人の会員が加入しています。今回は 4 団体の会員の活動紹介をさせていただきます。

公益社団法人 横浜 YMCA

健康教育、語学教育、専門学校、保育園、学童保育、発達障がい児・者支援、高齢者支援、野外教育施設などさまざまな活動を通して、生涯にわたって互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会を創ることを目指しています。



横浜市内に避難している家族を富士山 YMCA に招待してのキャンプ

日本の YMCA は、1995 年、阪神淡路大震災を機に地域における「災害ボランティアネットワーク」の設立に寄与し、2011 年東日本大震災、2017 年熊本地震などの災害時に、現地に YMCA スタッフやボランティアを派遣し、長期にわたる支援を行ってきました。管理・運営を横浜市から受託している地域ケアプラザでは、HUG（避難所 (H) 運営 (U) ゲーム (G)）を地域ケアプラザのスタッフだけでなく近隣の YMCA スタッフや地域の方々とともに体験し、発震の時に動けるようトレーニングを重ねています。



熊本・益城町体育館での避難所ボランティア

また、原発事故により外で思いっきり遊べない福島県の保育園の子どもたちに広大な草原で思いっきり外遊びをしてもらおうと、基金を募り、富士山 YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジへ招待することを継続しています。これからも未来に向けて横浜そして被災地の人とともに歩む取り組みを展開してまいります。皆さまのご支援、ご協力をお願いいたします。

横浜市旭区災害ボランティア連絡会



災害ボランティアセンター立ち上げ訓練

横浜市旭区災害ボランティア連絡会は、平成 28 年度・29 年度は「地域防災拠点との連携の基礎を構築」を事業の最重要事項と捉えて活動をしています。この活動推進には、旭区地域防災拠点運営委員会連絡協議会・旭区連合自治会町内会連絡協議会・小中学校・横浜市教育委員会西部学校教育事務所・旭区社会福祉協議会・旭区役所担当課長等、多くの皆様にご理解・ご協力を頂き、地域防災拠点コーディネーターも 82 名まで増員することができ、少しずつ活動が広がっています。また、29 年度には、個人情報取扱規定の制定及び旭区役所・旭区社会福祉協議会・旭区災害ボランティア連絡会との 3 者協定締結と体制も活動も前へ前へと進んでいます。

さらに、次年度以降も地域防災拠点との連携を深化させること、また、活動マニュアルの再整備、研修会・訓練等も次の段階へ進めてまいりたいと考えています。今後も一人でも多くの皆様にご賛同して頂ける活動を旭区災害ボランティア連絡会は進めてまいります。



災害ボランティアコーディネーター研修

横浜市町内会連合会

横浜市町内会連合会は、昭和 36 年 6 月に行政区ごとに設立された連合町内会長連絡会（現在の区連合町内会）の代表者で構成された横浜市連合町内会長連絡会を前身として発足しました。

発足以来、市内の各区連合町内会相互の連携を密にし、地域社会の振興・発展を図ることを目的として活動しており、年 10 回定例会を開催し、市の実施機関と市政協力について意見調整を行っているほか、自治会町内会への加入促進活動等を行っています。また、毎年、研修会を開催しており、平成 28 年度にはリニューアルした横浜市民防災センターを視察・体験しました。



きずな★夏祭り（加入促進イベント）



市民防災センターの地震体験

平成 29 年 4 月現在、市内には 2,864 団体の自治会町内会が組織され、123 万世帯が加入しています。同じ地域に住み、互いに助け合い、支え合うことは日々の市民生活にとって欠かすことができません。

また、災害時にはこのような地域の助け合い、支え合いは最も重要なものであると考えます。

横浜市町内会連合会は、今後も市内の自治会町内会を代表する立場で、行政と協働して住民福祉の充実のために活動していきます。

西区災害ボランティアネットワーク

西区は、横浜駅周辺やみなとみらい地区を中心とした沿岸部の埋め立て・干拓や川沿いの商業エリアと、それを挟むような台地で細道や急坂、木造建築が多数ある住居地で構成されています。震災時には、津波による浸水、地盤の液状化や、火災やがけ崩れなど様々な被害が想定されています。また、全国的にも知名度の高い「横浜」を象徴する場所を持つ西区には、災害後に全国から多くのボランティアが駆けつけると予想されます。

西区災害ボランティアネットワークは、こうした想定のもと、災害ボランティアセンター運営を担うため日ごろより、「①災害ボランティアコーディネーターの育成」「②災害対策本部や各地域防災拠点との連携強化」をテーマとして活動しています。



地域防災拠点でのHUG訓練



災害ボランティアコーディネーター養成講座

年間を通して、区社協や区の総務課、ボランティア班とも協力し、災害ボランティアネットワークの役割や連携について確認するための定例会議を開催しています。

また、①に対し、日赤救急法基礎講座や全 4 回のコーディネーター養成講座を開催することで、“地元をよく知る” コーディネーターの育成とメンバーの獲得につなげています。

②は、各地域防災拠点で HUG 訓練の実施や各地区への行事参加をとおして、災害ボランティアセンターや本ネットワークの機能を理解していただく機会としました。

報 告

区災害ボランティアネットワーク Bブロック研修

10月17日に、港南中央地域ケアプラザで、Bブロック研修を実施しました。今回の研修では、港南区災害ボランティアセンターに、他区の災ボラメンバーが運営支援として入ると想定し、運営にあたってのオリエンテーションの訓練を試行的に行いました。運営にあたっての模擬オリエンテーションを実施し、グループごとに港南区災害ボランティアセンターメンバーから他区災害ボランティアセンターメンバーへ運営方法の説明をした後、よりよい運営方法を目指すため意見交換を行いました。この取り組みをきっかけに具体的な連携が深まるように取り組んでいきます。



参加者全員に港南区災害ボランティアセンターのビブスを着用していただきました。井出代表より主旨を説明しました。

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| 1. 組織・班組織・担当部署 | 4. 災ボラセンターの流れ |
| 2. 災ボラ班 一日の流れ | 5. 災ボラ班 役割分担 |
| 3. 災ボラセンターレイアウト | 6. 災ボラセンターの運営協力にあたって（お願い） |

模擬オリエンテーションは、このような内容で実施しました。



港南区災害ボランティアネットワークメンバーから、災害ボランティアセンターの運営方法について、グループ毎に説明し、栄区、金沢区、磯子区、戸塚区の災害ボランティアネットワークと意見交換しました。

報 告

震災対策技術展に出展しました！

2月8日、9日にパシフィコ横浜で行われた『震災対策技術展』—自然災害対策技術展—に横浜災害ボランティアネットワーク会議として出展しました。

当日は今までの活動内容を示したパネルを展示し、リーフレットを配布しました。

多くの方が足を止めてくださり、熱心に質問してくれる方もたくさんいました。

横浜災害ボランティアネットワーク会議では、今後も災害ボランティアを考えるきっかけになるような周知活動にも積極的に取り組んでいきます。

